

県内経済は、世界的な景気の減速を背景として、生産活動は減少、雇用情勢は一段と厳しさを増し、個人消費も低迷するなど、悪化が続いている。

1. 平成21年4月の県内経済

消費動向をみると、大型小売店販売額（全店舗ベース）は、飲食料品が堅調だったものの、春・初夏物衣料や身の回り品が低調に推移し、5ヵ月連続で前年を下回った。乗用車新車販売は、大型、中小型乗用車、軽乗用車がいずれも減少し、全体では9ヵ月連続で前年を下回った。生産活動は、自動車、電気機械関連産業を中心に、多くの業種で前年を下回る動きが続いているが、在庫調整進展の動きを受け、下げ止まりの兆しが窺える。投資動向をみると、公共工事前払保証取扱は、請負金額、保証金額が2ヵ月ぶりに前年を下回った。建築着工（民間・非居住用）は、棟数、床面積、工事費予定額とも前年を下回った。新設住宅着工戸数は、分譲住宅が前年を上回ったものの、持家ならびに貸家が減少し、全体では6ヵ月連続で前年を下回った。倒産状況は、負債金額10百万円以上の倒産件数はほぼ横這い、負債総額は4ヵ月連続で前年を下回った。雇用情勢をみると、新規求人倍率、有効求人倍率（原指数）は、18ヵ月連続で前年を下回るなど、厳しい状況が続いている。

〔消費動向・減少〕

大型小売店販売額（全店舗ベース）は、飲食料品が堅調だったものの、春・初夏物衣料や身の回り品が低調に推移し、5ヵ月連続で前年を下回った。乗用車新車販売は、大型車、主力の中小型車が大幅減、軽自動車も減少し、全体では9ヵ月連続で前年を下回った。消費者物価指数は、前月比0.2%上昇し、2ヵ月連続で前月を上回った。前年同月比では0.3%下降し、3ヵ月連続で前年を下回った。個別企業の販売動向をみると、家電量販店は、薄型テレビ、DVDレコーダー、冷蔵庫、洗濯機は堅調、パソコン、携帯電話、デジタルカメラなどは低迷しており、全体では前年並みの水準で推移した。ホームセンターは、家庭用品、DIY商品、園芸植物、カー・レジャー用品、ペット関連などが好調に推移し、灯油の低迷をカバーし、全体では前年をやや上回る水準で推移した。旅行取扱額は、国内・海外の個人ならびに団体が、景気後退の影響などから低調に推移した。

〔投資動向・減少〕

4月の公共工事前払保証取扱は、件数は2ヵ月連続で前年を上回ったものの、請負金額、保証金額は2ヵ月ぶりに前年を下回った。3月の建築着工（民間・非居住用）は、棟数、床面積、工事費予定額は、それぞれ前年を下回った。4月の新設住宅着工戸数は、分譲住宅が前年を上回ったものの、持家および貸家が前年を下回り、全体では6ヵ月連続で前年を下回った。

〔生産活動・減少のなかに下げ止まりの兆し〕

3月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は、在庫調整進展の動きを受け、73.6（前月比+8.6%）と6ヵ月ぶりに前月を上回った。原指数は、80.4（前年同月比△29.2%）と8ヵ月連続で前年を下回った。4月の大口電力販売量は、電気機械、非鉄金属、輸送用機械、化学など主要大口需要先で前年割れが続いており、6ヵ月連続で前年を下回った。

〔企業倒産・横ばい〕

負債金額10百万円以上の企業倒産状況は、倒産件数がほぼ横這い、負債総額は4ヵ月連続で前年を下回った。また、福島県信用保証協会の代位弁済状況は、件数、金額がそれぞれ2ヵ月ぶりに前年を上回った。

〔金融動向・増加〕

4月末の預金残高は前年同月比+2.9%と26ヵ月連続で前年を上回った。貸出金残高も同+2.4%と10ヵ月連続で前年を上回った。

〔雇用動向・悪化〕

新規求人倍率、有効求人倍率（原数値）は、18ヵ月連続で前年を下回った。また、季節調整値でみた新規求人倍率は、0.68倍（前月比+0.01%）となった。有効求人倍率は0.36倍（同△0.03%）で過去最低水準を記録するなど、県内雇用情勢は厳しい状況が続いている。

県内経済動向の概要

	項 目	前年同月比			前 月 比		
		2 月	3 月	4 月	2 月	3 月	4 月
消費動向	大型小売店販売額（全店舗）	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	乗用車新車登録台数	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	消費者物価指数（総合）	↗	↗	↗	↗	↗	↗
投資動向	公共工事前払保証取扱保証請負金額	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	建設着工棟数（民間・非居住用）	↗	↗	—	↗	↗	—
	新設住宅着工戸数	↗	↗	↗	↗	↗	↗
生産活動	鉱工業生産指数（総合）注1	↗	↗	—	↗	↗	—
	大口電力販売量	↗	↗	↗	↗	↗	↗
企業倒産	企業倒産件数注2	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	企業倒産金額注2	↗	↗	↗	↗	↗	↗
金融動向	預 金	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	貸 出 金	↗	↗	↗	↗	↗	↗
雇用動向	有効求人倍率（パート含む）注3	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	新規求人倍率（パート含む）注3	↗	↗	↗	↗	↗	↗

良化 ↗ 良化傾向にあるがほぼ横這い ⇔ 悪化傾向にあるがほぼ横這い ⇐ 悪化 ↘
 注1：前月比は季節調整値、前年同月比は原指数。注2：負債総額10百万円以上。注3：前月比は季節調整値。前年同月比は原指数。

2. 県内経済動向

消費動向

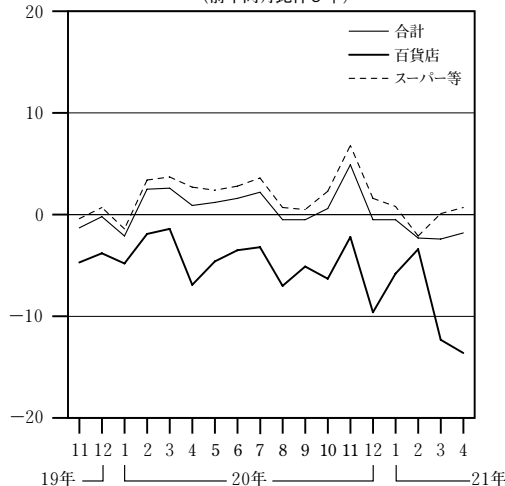
大型小売店 4月の県内大型小売店の販売額は、飲食料品が堅調だったものの、春・初夏物衣料品や身の回り品が低調に推移し、全店舗ベースで184億83百万円（前年同月比△1.8%）と5ヵ月連続、既存店ベースでも同3.8%減と5ヵ月連続で前年を下回った。（注：既存店とは調査月において当月と前年同月でともに存在した事業所の数値。）

業態別に内訳をみると百貨店は、衣料品が主力の婦人服を始めとして軒並み低調だったほか身の回り品、飲食料品なども振るわず、全店舗ベースで28億76百万円（同△13.6%）と、既存店ベース（同△10.2%）とともに20ヵ月連続で前年を下回った。

スーパーは、衣料品や身の回り品、家庭用品が低調だったものの、主力の飲食料品が堅調に推移し、全店舗ベースで156億7百万円（同+0.7%）と2ヵ月連続で前年を上回った。一方、既存店ベースでは、同2.4%減と5ヵ月連続で前年を下回った。

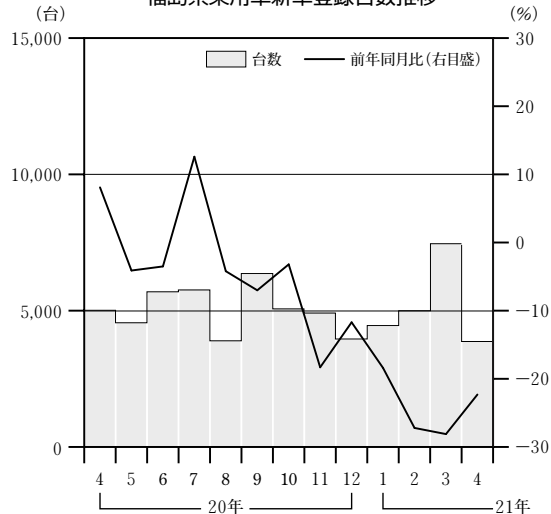
乗用車販売 4月の乗用車新車登録台数（軽乗用車含）は、合計で3,952台（前年同月比△22.3%）と大幅に減少し、9ヵ月連続で前年を下回った。車種別でみると、大型乗用車が406台（同△39.6%）、主力の中小型乗用車が1,914台（同△22.5%）

福島県大型小売店販売額（全店舗）
（前年同月比伸び率）



（資料：経済産業省）

福島県乗用車新車登録台数推移



（資料：福島県自動車販売店協会）

と、それぞれ9ヵ月連続、軽乗用車が1,632台（同△16.0%）と5ヵ月連続でいずれも前年を下回った。

4月の乗用車中古車販売台数（軽自動車は名義変更を含む）は、合計で9,658台（前年同月比△9.1%）と7ヵ月連続で前年を下回った。車種別にみると大型乗用車は2,733台（同△8.6%）と、3ヵ月連続で前年を下回った。また、中小型乗用車は3,735台（同△7.7%）、軽乗用車は3,190台（同△11.1%）で、いずれも7ヵ月連続で前年を下回った。

消費者物価指数 4月の消費者物価指数は、総合指数（福島市、平成17年=100）でみると、101.2（前月比+0.2%）となり、2ヵ月連続で前月を上回った。一方、前年同月比では0.3ポイント下がり、3ヵ月連続で下降した。

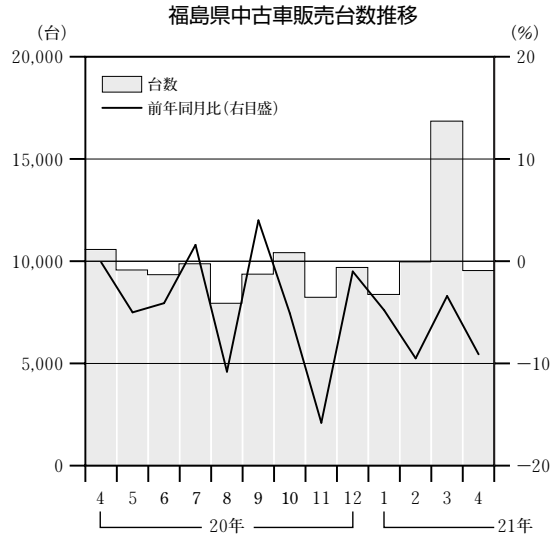
費目別の指数動向をみると、「被服および履物」が102.9（前月比+10.2%）、「教育」が103.7（同+1.0%）、「保健医療」が98.3（同+1.0%）など4つの費目で前月比上昇した。一方、「光熱水道」が107.0（同△1.4%）、「教養娯楽」が96.3（同△0.9%）、「家具・家事用品」が94.2（同△0.7%）、「交通通信」が97.2（同△0.3%）、「住居」が99.1（同△0.2%）と5つの費目で前月比下降した。また、「食料」は105.7で前月と変らなかった。

家電量販店 4月の売上状況は、薄型テレビ、DVDレコーダー、冷蔵庫、洗濯機が堅調な一方、パソコン、携帯電話、デジタルカメラなどは低迷しており、全体では前年並みの水準で推移した。

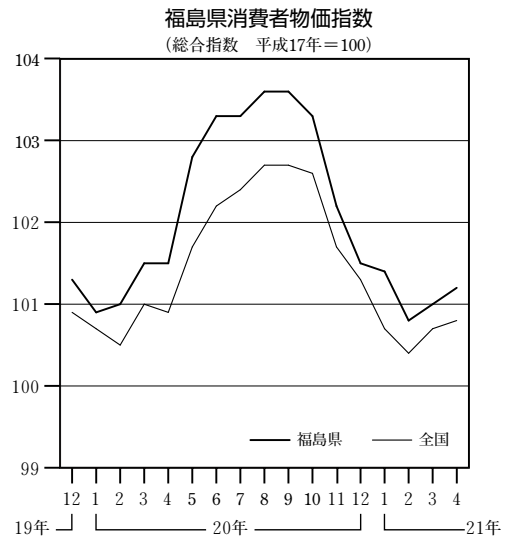
ホームセンター 4月の売上は、家庭用品、DIY商品、園芸植物、カー・レジャー用品、ペット関連などが好調に推移し、灯油の低迷をカバーし、全体では前年をやや上回る水準で推移した。

旅行 4月の旅行取扱額実績は、景気後退の影響などから、国内・海外の個人ならびに団体はいずれも低調に推移した。

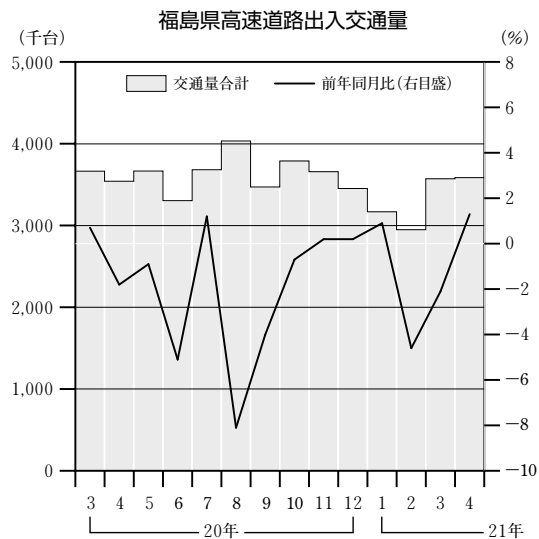
高速道路 4月の県内自動車道通過台数は3,601,630台（前年同月比+1.3%）と3ヵ月ぶりに前年を上回った。路線別にみると、東北自動車道（白河IC～国見IC）は2,110,250台（同△1.4%）と3ヵ月連続で減少、磐越自動車道（いわき三和IC～



(注) 軽自動車は名義変更台数含む
資料：(社)日本自動車販売協会連合会 福島支部
(社)全国軽自動車販売協会連合会



(資料：総務省統計局)



(資料：東日本高速道路(株)東北支社)

郡山東 IC) は310,242台 (同+4.0%) と2ヵ月ぶりに前年を上回った。磐越自動車道 (磐梯熱海 IC~西会津 IC) は504,902台 (同+8.8%) と2ヵ月連続で前年を上回った。常磐自動車道 (いわき勿来 IC~常磐富岡 IC) は676,236台 (同+3.7%) と18ヵ月ぶりに前年を上回った。

福島空港 4月の福島空港国内定期路線の利用状況は、平成21年1月の日本航空の撤退に伴う大阪 (関空発着)・沖縄両路線の廃便により、13,608人 (前年同月比△63.3%) と前年を大きく下回った。路線別にみると、札幌便は5,676人 (同△22.5%) と6ヵ月連続、大阪便は7,932人 (同△65.2%) と16ヵ月連続でそれぞれ前年を下回った。一方、国際定期路線の利用状況は、3,686人 (同△33.8%) と6ヵ月連続で前年を下回った。路線別にみるとソウル便は3,002人 (同△38.9%) と6ヵ月連続で前年を下回った。上海便は684人 (同+4.6%) となった。

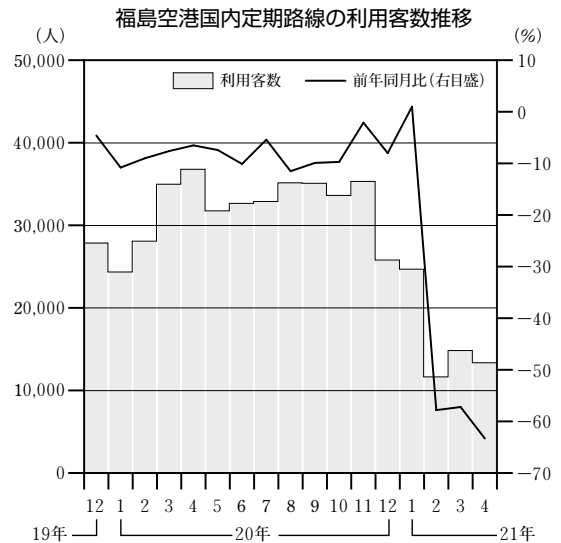
また、チャーター便は、国内便が9,517人 (前年同月0人)、国際便が0人 (同1,895人) となっている。

—— 投資動向 ——

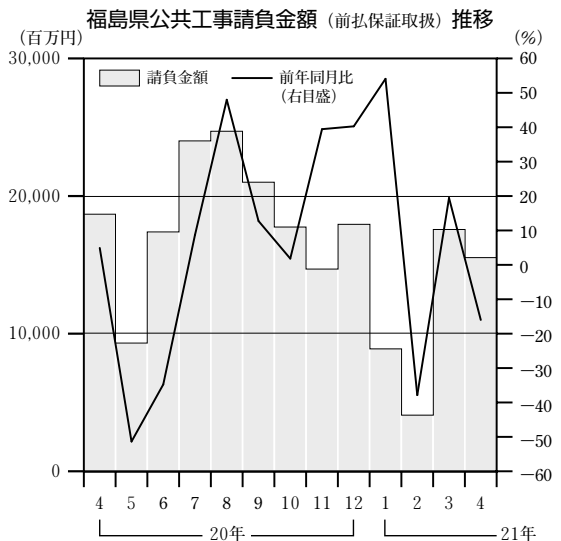
公共工事 4月の公共工事前払保証取扱は、件数が319件 (前年同月比+35.7%) と2ヵ月連続で前年を上回ったものの、請負金額が156億円 (同△16.5%)、保証金額が57億14百万円 (同△16.6%) となり、それぞれ2ヵ月ぶりに前年を下回った。

主な発注者別の請負金額は、国が前年比8億19百万円減少し、27億88百万円 (同△22.7%) となった。また、県は同6億42百万円増加し、56億26百万円 (同+12.9%)、市町村が同15億28百万円減少し、27億20百万円 (同△36.0%) となった。

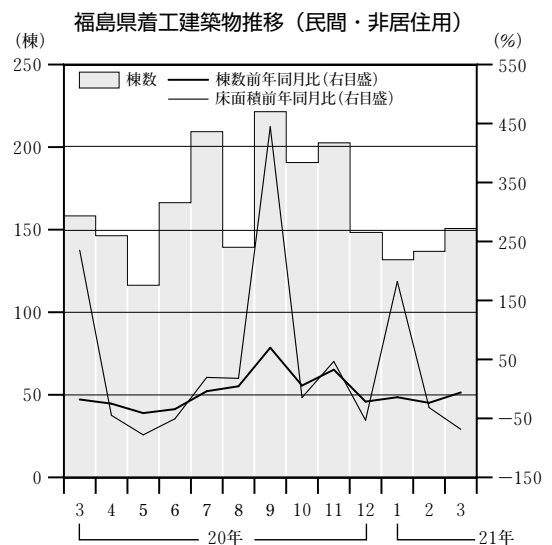
設備投資 3月の建築着工 (民間・非居住用) は、棟数が152棟 (前年同月比△4.4%) と4ヵ月連続で、床面積は59,202㎡ (同△67.0%) と2ヵ月連続でそれぞれ前年を下回った。また、工事費予定額は90億19百万円 (同△48.6%) と3ヵ月ぶりに前年を下回った。



(資料：福島県商工労働部空港交流課)



(資料：東日本建設業保証(株))



(資料：国土交通省)

4月の建築物確認件数（計画変更を除く）は、726件（前年同月比△12.8%）と7ヵ月連続で前年を下回った。建築物別にみると、1～3号建物（一定規模以上の建築物が対象）が129件（同△34.2%）、4号建物（小規模な木造・非木造住宅などが対象）が597件（同△6.3%）と、それぞれ7ヵ月連続で前年を下回った。「構造計算適合性判定合格件数」は9件と前月比10件減少し、2ヵ月ぶりに前月を下回った。

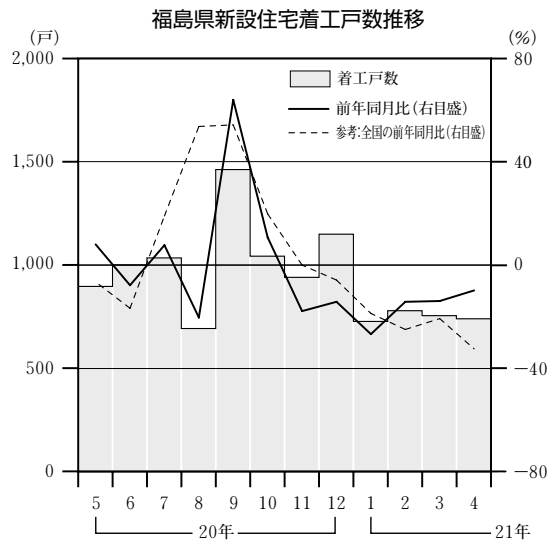
建築物着工の先行指標である4月の建築物申請件数は、736件（同△3.4%）と6ヵ月連続で前年を下回った。建築物別にみると、1～3号建物は145件（同△9.4%）と7ヵ月連続、4号建物は591件（同△1.8%）と6ヵ月連続で、それぞれ前年を下回った。「構造計算適合性判定申請件数」は17件と、前月比5件増加し3ヵ月連続で前月を上回った。

住宅建設 4月の県内新設住宅着工戸数は、744戸（前年同月比△9.8%）と6ヵ月連続で前年を下回った。主な利用関係別にみると、「持家」は427戸（同△9.5%）と2ヵ月連続で、「貸家」は267戸（同△19.3%）と6ヵ月連続でそれぞれ前年を下回った。一方、「分譲住宅」は49戸（同+133.3%）と2ヵ月連続で前年を上回った。分譲住宅のうちマンションの着工戸数は、ゼロとなっている。

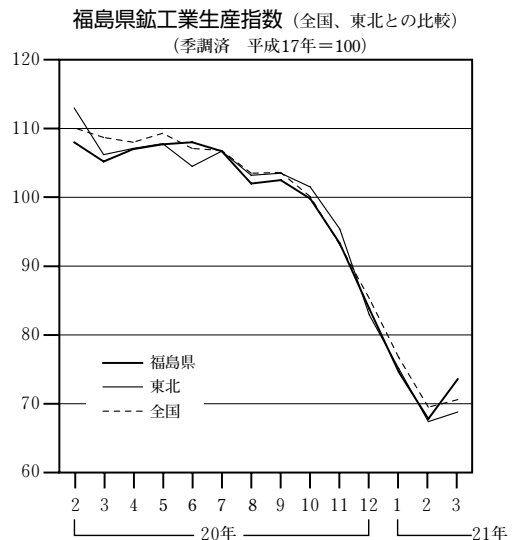
—— 生産活動 ——

鉱工業生産指数 3月の鉱工業生産指数は、季節調整済指数でみると73.6（前月比+8.6%）となり、在庫調整進展の動きを受け、6ヵ月ぶりに前月を上回った。原指数は80.4（前年同月比△29.2%）と大幅に低下し、8ヵ月連続で前年を下回った。

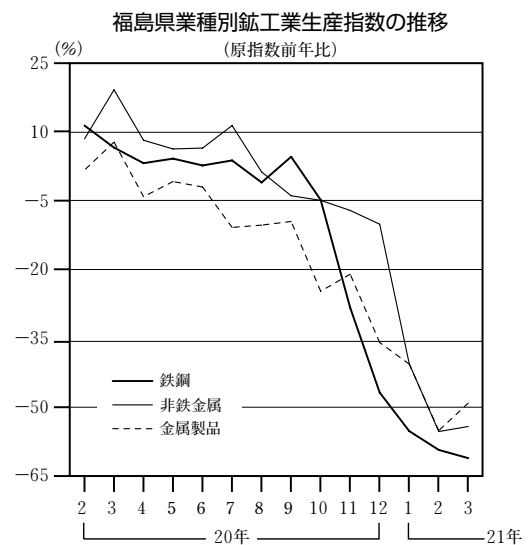
上昇および低下した主な業種別（季節調整済指数）では、一般機械工業で74.5（前月比+29.8%）、電気機械工業で90.3（同+27.4%）、情報通信機械工業で91.6（同+26.0%）など11業種で上昇した。一方、印刷業で102.0（同△27.1%）、繊維工業で62.0（同△15.2%）、食料品・たばこ工業で



(資料：国土交通省)



(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県企画調整部統計調査課)

73.0（同△10.9%）など9業種で低下した。

化学 4月の食品包装フィルム用合成樹脂やフッ素樹脂、医薬品は堅調だったものの、金属代替プラスチック、炭素繊維などは前年を下回る水準で推移した。酸化チタン（白色顔料、自動車用塗料向け）および電子材料（コンデンサー、リチウムイオン電池等材料）の生産は前年を大きく下回る水準で推移した。バリウム化合物（電子部品原料）の生産は、前年並みの水準で推移した。

鉄鋼・金属 4月の伸銅品の生産は、自動車向け端子材、半導体向け電子材がそれぞれ前年を大きく下回る水準で推移した。建機用鋳造品の生産は、前年を大幅に下回った。車両用鋳造品は、新幹線、JR中央線・京浜東北線の更新需要および海外需要に支えられ、前年並みの水準で推移した。船舶用バルブ部品、陸上プラント用バルブ部品は、前年をやや下回る水準で推移した。

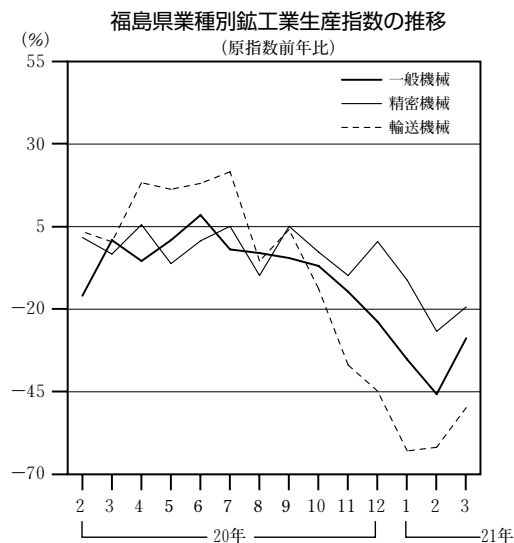
輸送用機械 4月の自動車用鋳造品の生産は、海外向けが低迷、前年を大きく下回る水準で推移した。自動車用オイルシールの生産は、在庫調整の動きが終息したものの、前年を大きく下回り推移した。カーナビ・カーオーディオの生産は、自動車メーカーの生産調整の動きを受け、前年を大幅に下回る水準で推移した。

電気機械 4月の変圧器、配電盤は堅調、電熱炉、自動車モーターの生産は前年を下回る水準で推移した。

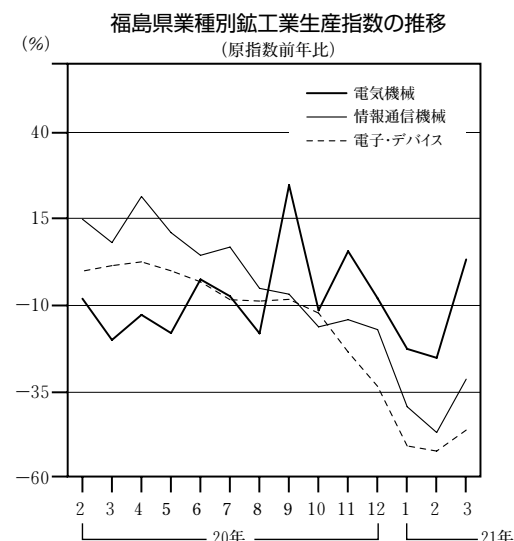
情報通信機械 4月の携帯電話中継局用マイクロ波通信機器の生産は、主力のインド向けが落ち込み、前年を下回る水準で推移した。衛星通信機器関連、FA関連機器の生産は、前年並みの水準で推移した。

電子部品・デバイス 4月のLSI（大規模集積回路）の生産は、主力のAV・ゲーム機・家電、産業機器を始め、車載品、パソコン・OA、通信向け、携帯電話向けなど、総じて前年を大きく下回る水準となった。

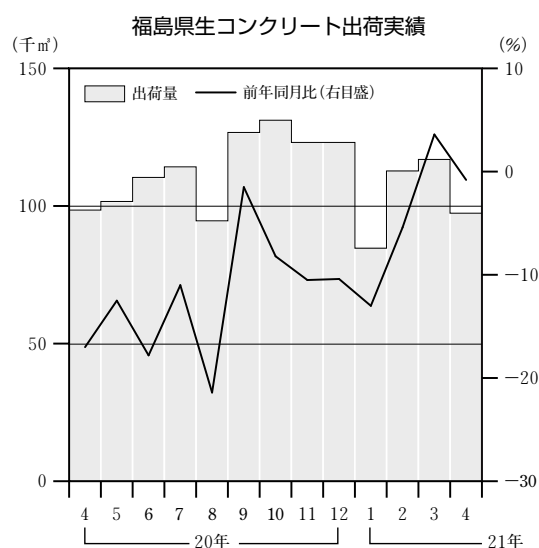
精密機械 4月の医療用内視鏡の生産は前年を大きく下回る水準で推移した。デジタル一眼レフカメラ用レンズは、前年をやや下回る水準で推移した。



(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県生コンクリート工業組合)

紙・紙加工品 4月の段ボールの生産は、IT製品向けが低迷、前年を大幅に下回る水準で推移した。感熱紙、インクジェット紙、ノーカーボン紙の生産は、前年をやや下回る水準で推移した。

窯業・土石 4月の生コンクリート出荷量は、全体で98,070m³（前年同月比△0.8%）と2ヵ月ぶりに前年を下回った。増加地区をみると、官公需では、白河地区で砂防工事、県北地区で庁舎新築工事により増加した。また、民需では、相双地区で高速道路工事や火力発電所建設工事により増加した。

清酒 4月の清酒移出数量は、1,513kl（前年同月比△9.0%）と7ヵ月連続で前年を下回った。タイプ別では、特定名称酒（吟醸酒・純米酒・本醸造酒）が489kl（同△2.2%）と2ヵ月ぶりに前年を下回った。一般酒（特定名称酒以外の酒）は、1,024kl（同△12.0%）と7ヵ月連続で前年を下回った。

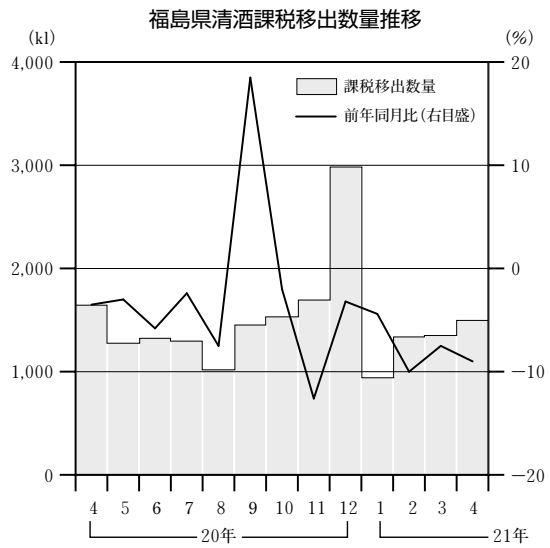
合成繊維物 4月のナイロンの生産はダウンジャケット（表地）向けを中心にほぼ前年並みの水準で推移した。ポリエステルも、紳士服、婦人服の裏地向けを中心に前年並みの水準で推移した。

ニット 4月のニットの生産は、国内需要減の低迷から、受注・生産は低調な水準で推移した。

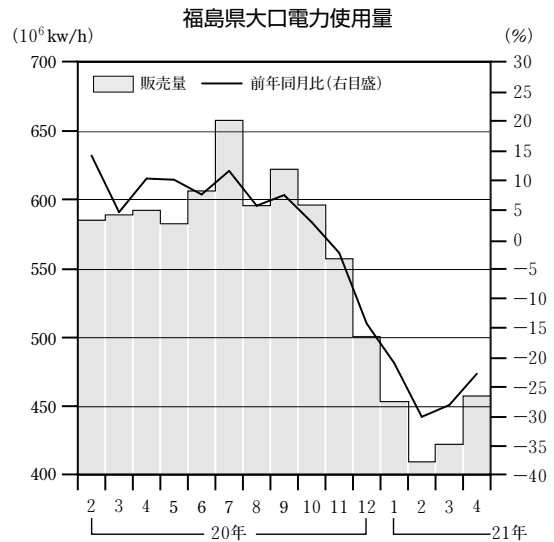
大口電力 4月の大口電力販売量は、458百万kw/h（前年同月比△22.8%）と6ヵ月連続で前年を下回った。大口主要販売先を業種別にみると、「電気機械」で105百万kw/h（前年同月比△13.6%）、「非鉄金属」で97百万kw/h（同△19.5%）、「化学」で43百万kw/h（同△35.1%）、「輸送用機械」で35百万kw/h（同△38.1%）、「一般機械」で21百万kw/h（同△26.9%）、「紙・パルプ」で21百万kw/h（同△35.7%）となり、それぞれ前年を下回った。

—— 企業倒産 ——

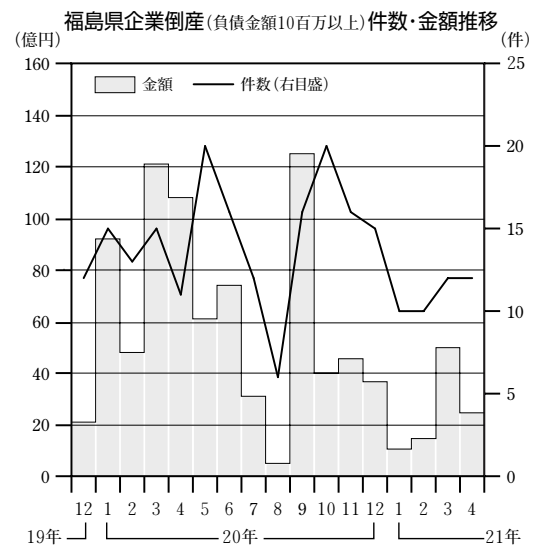
企業倒産 4月の企業倒産（負債金額10百万円以上）は、倒産件数が12件（前年同月比+9.1%）



(資料：福島県酒造組合)



(資料：東北電力福島支店)



(資料：帝国データバンク福島支店)

となり、4ヵ月ぶりに前年を上回った。負債総額は24億88百万円（同△76.9%）となり、4ヵ月連続で前年を下回った。

倒産主因別内訳は、受注・販売不振11件、放漫経営1件となった。業種別内訳は、建設業が2件、製造業が3件、卸売業が3件、小売業が4件となった。地区別内訳は、県北が3件、県南が4件、会津が3件、浜通りが2件となった。

金融動向

資金需要 県内金融機関（全国銀行、第二地銀、信用金庫、信用組合の県内店舗分）の4月末の預金残高は、6兆4,080億円（前年同月比+2.9%）と26ヵ月連続で前年を上回った。貸出金残高は、3兆8,753億円（同+2.4%）と10ヵ月連続で前年を上回った。

保証協会 4月の保証承諾は、件数が1,134件（前年同月比+30.2%）と5ヵ月連続、保証金額が130億4百万円（同+55.8%）と7ヵ月連続で前年を上回った。一方、代位弁済は、件数が61件（同+5.2%）、金額が5億65百万円（同+59.5%）と、それぞれ2ヵ月ぶりに前年を上回った。

雇用動向

雇用動向 4月の新規求人数（原数値）は、7,657人（前年同月比△25.4%）と18ヵ月連続で前年を下回った。一方、新規求職申込件数（原数値）は、15,387件（同+22.4%）と8ヵ月連続で前年を上回った。

新規求人倍率（季節調整済、パート含）は、0.68倍（前月比+0.01ポイント）と2ヵ月連続で前月を上回った。原数値は0.50倍（前年同月比△0.32㊦）と18ヵ月連続で前年を下回った。有効求人倍率（季節調整済、パート含）は、0.36倍（前月比△0.03㊦）と6ヵ月連続で前月を下回った。原数値は0.33倍（前年同月比△0.37㊦）と18ヵ月連続で前年を下回った。

